No.１７３
令和２年７月６日
【発行】
豊橋市立青陵中学校　校長室
t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun

ツバメの子育てに学ぶ

ツバメ（燕、学名：Hirundo rustica）はスズメ目、ツバメ科に属する鳥類である。古くはツバクラメあるいはツバクロと呼ばれた。

泥と枯草を唾液で固めて巣を造る。ほとんど人工物に造巣し、民家の軒先など人が住む環境と同じ場所で繁殖する傾向が顕著である。これは、天敵であるカラスなどが近寄りにくいからだと考えられている。

巣は通常は新しく作るが、古い巣を修復して使用することもある。産卵期は 4～7 月ごろ。一腹卵数は 3～7。主にメスが抱卵する。抱卵日数は 13～17 日。その後の巣内での育雛日数は 20～24 日。1 回目の繁殖の巣立ち率は概ね 50%程度と推定される。1 回目繁殖に成功したつがいあるいは失敗したつがいのうち、詳細は不明であるが、相当数のつがいがその後２回目及びやり直しの繁殖をする。

フリー百科事典「**Wikipedia**」より

我が家のガレージにツバメの巣がかかっています。毎年のようにつがいのツバメがやって来ては、子育てをしていました。８年ほど前でしょうか。子育てに失敗(?)してからというもの、ツバメはやって来なくなってしまいました。家主のいなくなった巣は、経年劣化してだんだんと傷みがひどくなってきていました。

１か月ほど前、久しぶりにつがいのツバメがやって来て、せっせと巣を修復し始めたのです。「もしや」と思って観察を続けていると、抱卵するようになりました。それから２週間ほどしたある日、ヒナがかえっていることを確認することができました。

自動車を出し入れするときには必ず目に留まる場所なので、毎日観察していますが、ヒナが大きくなっていく姿を見ていると、何だか我が子のような感覚になってくるから不思議なものです。

親ツバメはというと、ヒナがかえるまでは、オスとメスが代わる代わる卵を温めていました。卵からヒナがかえってからというもの、一日中エサとなる虫の捕獲に東奔西走ならぬ、“東奔西飛”しています。たまによそ者のツバメが飛来すると、大きな鳴き声で威嚇し、それこそ命をかけて空中戦を演じています。我が子のために自らの寝食を削って働いているかのようです。

翻って、私の教育にかける営みはどうだったかと振り返ってみました。受けもった子どもたちを少しでもよくしようと、毎日がむしゃらに過ごしていたことは紛れもない事実です。しかし、「長い人生の礎となるものを築いてあげることができたのか」「彼ら・彼女らのために、全身全霊を賭けて仕事をしていたか」という自らの問いに、胸を張って「YES」とは言えないような気もするのです。

教育には「はい、これまで」という一線や明確なゴールはありません。やり出したら次から次へとやりたいことが出てきて、きりのない仕事です。私たちは、「今年がだめならまた来年」という考え方ができますが、子どもたちや保護者にとっての「この１年」は、一生のうち一度しかないのです。

親ツバメのように寝食を削ってとは言いませんが、目の前の「この子」のために、最大限の努力を惜しまないことが大切だと思うのです。少なくとも、何年か後、「あの年はとにかく“これ”に全力で頑張っていたなあ」と振り返ることができるようにしたいものです。

こんなことを書いておきながら何ですが、くれぐれも無理はなさらないように。健康第一であることが大前提です。先生がたが健康で、しかも、笑顔で勤めてくれることが、わたしの責務であり心からの願いです。